

# 安全の手引き

平成27年2月1日  
在ハンガリー日本国大使館

## 目次

はじめに

1	ハンガリーの治安情勢	2
2	邦人の被害状況	2
	(1) 概論	
	(2) 被害対象	
3	主な被害罪種の傾向と対策	3
	(1) すり	
	(2) 置き引き	
	(3) 侵入窃盗	
	(4) 詐欺盗	
	(5) 路上犯罪(強盗、ひったくり)	
	(6) 自動車盗・車上狙い	
	(7) ぼったくり	
4	緊急連絡先	17
5	緊急時の簡単なハンガリー語	18

おわりに

## はじめに

ハンガリーの治安情勢については、大規模テロや暴動、クーデター等の発生危険性は他国に比べ低く、一般犯罪の被害に遭う可能性が高いと言えます。残念ながら、毎年多くの旅行者や在留邦人の方々が、すりや置き引きを始めとする犯罪被害に遭遇しています。

そこで当館は、皆様の安全対策の一助となるよう「安全の手引き」を作成しました。ここ数年間で邦人の方々が被害に遭った実際の事件を題材に、犯行の具体的な手口と効果的な対策を紹介していますので、是非ご活用下さい。

## 1 ハンガリーの治安情勢

ハンガリーの年間犯罪認知件数は、1998年の約60万件をピークとしてその後減少傾向を辿り、ここ数年間は40万件前後と、欧州各国と比較して平均的な数字で推移してきました。

ところが、2010年を境に上昇に転じ、同年の犯罪認知総件数は約44万件、2011年は約45万件、さらに2012年は47万件と増加の一途を辿っていましたが、国内法の改正、刑法の厳格化、警察官に対する積極的指導及び警察インフラの改善により、2013年の犯罪認知件数は約32万件、さらに昨年は、約31万件まで減少しました。

昨年中のハンガリーにおける犯罪認知件数を、日本の犯罪認知件数約132万件と比較すると、約4分の1程度の発生ですが、人口千人当たりの犯罪認知件数は、ハンガリーが33.3件、日本が10.2件と、日本の約3倍という高い数値を示しています。

## 2 邦人の被害状況

### (1) 概論

2014年中にハンガリーを訪れた日本人観光客は7万7,516人、ここ5年間の平均は7万4,125人と、毎年約7万人の日本人観光客がハンガリーを訪れています。また、当地には約1,200人の在留邦人が居住しており、東欧諸国の中でも比較的多くの日本人が在住しています。その中で、日本人を対象とした犯罪は、ここ5年平均を見ると70件ほど発生しています。

### (2) 被害対象

すりや置き引き、偽警察官による詐欺盗等の被害は、例年、旅行者が圧倒的多数を占めており、外国慣れしている在留邦人の警戒心の高さが際立っているとと言えます。

一方で、侵入窃盗や車上狙い等、当地在住者を対象とした犯罪が依然として多く発生していることから、当地での居住歴が長い方も、こうした犯罪被害には十分お気を付け下さい。

### 3 主な被害罪種の傾向と対策

#### (1) すり

日本のすりは、単独犯による犯行が多く見受けられます。一方ハンガリーでは、単独犯の他、話し掛ける、ぶつかる等して相手の注意を引く『引きつけ役』と、実際にすりを行う『実行犯』に分かれ、複数人により行われる手口が特徴的です。

##### 公共交通機関内のすり被害

バスでウエストエンドからオクトゴンに向かう途中、車内が混雑していたので、すりに遭わないよう斜めがけカバンを前にして乗車していた。バスを降りた後、友人らと歩いてホテルに戻り、カバンの中身を確認したところ、財布がなくなっていることに気が付いた。

トラムに乗車しようとしたところ、車内が空いているにもかかわらず、ドア付近で入口を塞ぐようにして女性が立っていたため、乗車できずにいた。女性を押しよけて乗車しようとしたところ、後ろから来た男性が勢いよくぶつかってきた。トラムに乗車後、ズボンの後ろポケットに入れてあった長財布がなくなっていたことに気が付いた。

デブレツェン中心部で、バスから降車した際、背負っていたカバンを見たところチャックが開いていた。慌ててカバンの中身を確認すると、中に入れてあったパスポートがなくなっていた。

16番バスに乗車し、カバンを前に掛けて乗車していた。当時車内は混雑しており、カバンが通路側にずれたが、視認できる範囲にあったことから特段警戒することなく、そのままバスを降りてカバンを見ると、チャックが開いており、中に入れてあった財布がなくなっていた。

#### 【注意喚起】

王宮の丘へ向かう16番バスは車両が通常のバスよりも小さく、観光客でいつも混雑していることから通称「すりバス」と呼ばれており、観光客が多数被害に遭っている最も危険な路線の一つです。また、4番・6番トラムは24時間運行しており、特に朝方、酔っ払い客を狙ったすりが乗車しているため、十分ご注意ください。

##### 観光名所におけるすり被害

くさり橋を歩いていたところ、反対側から歩いてきた若い男性数名と肩がぶつかった。男性らに周りを取り囲まれたが、男性らがしきりに謝る仕草をしたため、そのまま立ち去ったが、ホテルに戻ってズボンを見てもみると、前ポケットに入れてあった財布がなくなっていたことに気が付いた。

鎖橋付近でカメラを取り出そうとして、後ろ掛けにしていたカバンを見ると、閉めたはずのチャックがいつの間にか開いており、カバンの中に入れていた財布がなくなっていた。エスカレーターや電車内で他人との距離が近いとは感じることはあったが、盗られたと感じる瞬間は一切なかった。

中央市場で買い物をした後、2階のフードコートを歩いていたところ、周囲の人がじろじろ見てきたので不審に思い、後ろ掛けにしていたカバンを見ると、閉めていたはずのファスナーが開いており、中に入れていた財布がなくなっていた。

団体旅行でイシュトバーン大聖堂を観光し、大聖堂から出る際、周囲は外国人だらけだった。外に出ると、雨が降っていたため、カバンから傘を取り出そうとした際に、前掛けにしていたカバンが後ろにずれた。大聖堂前の広場に出た後、カバンを確認すると、ファスナーが開いており、中に入れていたパスポートがなくなっていた。

オペラ座前で2人組の女性に話し掛けられた。ウエストポーチを腰のあたりに前掛けにしていたが、女性らは大きな地図を目の前に広げ、「ここに行きたいので道順を教えてほしい」と言ってきた。しかし、観光客であり道がわからない旨伝えと女性らはそのまま立ち去った。その後、ウエストポーチを見ると、チャックが開いており、中に入れていた財布がなくなっていた。

王宮に上るため、くさり橋前にあるケーブルカーのチケット売り場に並んでいた。人が多かったためすりに用心していたが、カバンから財布を取り出した後、カバンを後ろ掛けにしており、気が付くとカバンのチャックが開いており、現金のほか、パスポート等がなくなっていた。

野外フェスティバルの会場で、ウエストポーチを腰に付けて会場を見て回った後、会場内のベンチに座り、ポーチ内に入れていた財布を取り出そうとしたが、ポーチの横に鋭利な刃物で切られた跡があり、中に入れたあった財布がなくなっていた。

中央市場で買い物中、2階の狭い通路を同じ方向に歩いていた男性2名がゆっくりと歩き始めたので、同人らを足早に追い抜こうとした。その際に男性らが不自然にぶつかってきたが、男の一人が謝る仕草を見せたことからその場を離れ、階段を降りた後リュックを確認すると、チャックが開いており、中に入れていた財布がなくなっていた。

王宮地区を観光中、美術館に入場するためチケット売り場に並んでいたところ、さほど混雑していなかったが、女性がすぐ後ろにぴったりと

くっつくように並んでいた。窓口に進み支払いをしようとして、後ろ掛けにしていたカバンから財布を取ろうとしたところ、カバンのチャックが開いており中に入れていた財布がなくなっていた。

#### 【注意喚起】

観光名所でのすり被害は、鎖橋、マーチャーシュ教会、セントイシュトバーン大聖堂、漁夫の砦等で多く発生していますが、とりわけ漁夫の砦における写真撮影中のすり被害が多発しています。

#### 写真撮影中のすり被害

4・6番トラムに乗車中、眺望の良いドナウ川上にさしかかったところで写真撮影をしていると、見知らぬ男性がコートの右ポケットに手を入れて財布を盗もうとしてきた。慌ててポケットを押さえると、男は「俺は何もしていない」と言いながら、次の駅で降車した。当時、トラム内は人もまばらで空いていたにも関わらず犯行に及ぼうとしていた。

漁夫の砦を観光中、見知らぬ外国人男性から写真撮影を依頼されたので、カメラを受け取り撮影した。その後、観光バスに戻り後ろ掛けにしていたカバンを確認したところ、中に入れてあったパスポートがなくなっていた。

漁夫の砦を観光中、見知らぬ外国人男性から写真撮影を依頼されたので、カメラを受け取り撮影した。しばらくしてからカバンを見ると、チャックが開いており、中に入れてあった財布がなくなっていた。

漁夫の砦を観光中、見知らぬ外国人男性から写真撮影を依頼されたので、カメラを受け取り撮影した。その後、一緒にいた友人からカバンのチャックが開いていることを指摘されたので、中身を確認すると、入れてあったパスポートと財布がなくなっていた。

#### 【対策】

写真撮影を依頼された場合は、基本的に断るが、やむを得ず撮影する場合には、背後にすりの仲間と思われる怪しい人物がいないかを確認する。また、周りに家族や友人がいる場合には、必ず自分の周囲を警戒してもらうようにする。

外出時は、ファスナー付きの内ポケットを備えたカバンを使う(この構造のカバンであれば、すりは外側のファスナーを開けた後、さらに内側のファスナーを開かなければならず、被害者に気付かれずに中身をすり取ることは困難)。

持ち歩く現金は、可能な限り最小限にとどめ、『財布』と、小額の紙幣や硬貨を入れる『小銭入れ』を使い分ける。財布はカバンの奥底に収納し、必要のある時以外は出さない。

日本にいる時と同じ感覚で、上着の胸ポケットやズボンの後ろポケットやウエストポーチ等に財布を入れない。

## (2) 置き引き

置き引きは、最も被害の多い犯罪形態の一つで、友人や知人が周りにいることに安心してつい油断しがちになり、ほんの一瞬目を離した隙に持ち去られてしまいます。発生場所も様々ですが、Rail-Jet 等の長距離列車や混雑した駅構内において多く発生しています。

### 駅・列車内での置き引き被害

ミュンヘンから夜行列車でブダペストへ向かう途中、コンパートメント内の棚の上にカバンを置いたまま寝ていたところ、途中の停車駅で50歳くらいの男性が乗車してきた。男性はコンパートメント内の座席に座ったまま寝ていた。電車がブダペスト東駅に着いたときには男性の姿はなく、現金、パスポート、クレジットカードが入っていたカバンがなくなっていた。後日、クレジットカード会社から連絡があり、何者かによりカードが利用されていた事実が確認された。

ウィーンからの長距離列車 (Rail-Jet) 内で、足下に置いてあった、財布、携帯電話、パスポートが入ったカバンが盗まれた。当時電車内は混雑しており、通路にも人が立っている状況だった。

ウィーンからの長距離列車 (Rail-Jet) 内で、棚の上に置いてあったカバンが盗まれた。座席の上の棚にカバンを置き「電車内は逃げ場がないから盗まれないだろう」と思い荷物を棚の上に置いたままトイレに立ち、ブダペスト東駅に着いた時にカバンを取ろうと棚を見たところ、カバンがなくなっていた。

ウィーンからの長距離列車 (Rail-Jet) 内で、足下に置いてあった財布、パスポート、パソコンが入ったカバンが盗まれた。カバンは足下に置いており、さらに友人4人がお互いに気を付けていたにもかかわらず、混雑に乗じて盗まれた。

ブダペスト東駅からウィーンに向かう長距離列車 (Rail-Jet) に乗車し、座席に座り出発を待っていたところ、外にいる老人が窓を叩いて大きな声で叫んでいた。しばらくして老人が立ち去った後、座席を見ると置いてあったカバンがなくなっていた。

レストラン・カフェでの置き引き被害

ブダペスト市内で行われたオクトーバーフェスタで飲食中、椅子に置いてあった、パスポート、現金が入ったカバンがなくなっていた。当時会場はさほど混雑してはいなかったが、一瞬目を離した際に持って行かれた。

#### 【対策】

周囲の者が「それはあなたのではない」等と犯人に対して窃盗行為を咎めることはしないため、『自分の物は自分で守る』意識を常に持つ。

席を離れる際は、たとえわずかな時間であっても、貴重品は必ず携行する。

長距離列車等で移動中、棚の上にカバンを置く際には、棚とカバンを紐で結ぶ等して、簡単に持ち去ることができないようにする。

駅構内や列車内には、旅行者を狙った犯罪者がいるという認識を強く持つ。

### (3) 侵入窃盗

日本における侵入窃盗の認知件数は10万7,467件に対し、検挙件数は5万3,914件(検挙率50.2%)と高い検挙率を維持しているのが特徴としてあげられます。一方、ハンガリーにおける認知件数は2万4,189件、検挙件数が4,692件(検挙率13.7%)と、日本と比較すると約30%低く、被害に遭った場合、被害品が戻ってくる確率が極めて低いと言えます。

ハンガリー全体の侵入窃盗被害のうち、約2万4,189件(約7.8%)がブダペスト市内で発生しており、とりわけ2区及び12区における被害報告が多く、地域性の強い犯罪であると言えます。

また、自宅以外のホテル等においても決して油断はできません。ユースホテルに宿泊していた女性が、深夜目を覚ますと見知らぬ男性が自分のカバンから何かを持ち出そうとした事案も報告されています。自宅以外の宿泊先等でも戸締まりをしっかりとる等十分にご注意下さい。

#### 【住居選定に係るアドバイス】

住居選定前

推奨物件

最近では、建物内に防犯カメラが設置されていないマンションを狙った犯行が多く報告されています。家人が共用玄関の鍵を開けるのを狙って、住民のふりをして侵入した後、複数宅を物色し侵入を図る、あるいは、駐車場で車上狙い等の犯行に及ぶというものです。そうした犯罪事情を考慮し、下記要件を参考とした物件選択を推奨します。

【集合住宅】

- 屋内共用部分に防犯カメラが設置されている物件
- 警備員が共用部分・駐車場内をパトロールしている物件
- フェンス、共用玄関、自室玄関の3ヶ所に鍵がある物件

【一戸建て】

- 窓枠が金属製の物件（ドリルで穴を開ける手口が多いため）
- 警報装置付きの物件

非推奨物件

地上階の物件は、高層階に比べ外部からの侵入が容易となります。一方で、高層階が100%安全というわけではなく、鉄製の雨樋をよじ上って2階のベランダに侵入する泥棒もいれば、屋上から最上階の部屋のベランダにロープを垂らして侵入する泥棒もいるため、ベランダ付近や屋上の構造も選定する際には重要となります。

ガレージのない物件では、車両窃盗や車上狙いの危険性が高いほか、当て逃げ被害等、器物損壊の被害に遭う危険性も含んでいます。従って、下記物件は極力避けるのが良いでしょう。

【集合住宅】

- 外部から部屋の玄関まで誰もが入れる物件
- 地上階の物件
- ガレージのない物件
- 一般的に治安が悪いと言われる地域の物件

【一戸建て】

- 一般的に治安が悪いと言われる地域の物件
- 外周から家の内周が見通せない物件

居住開始後

確実な施錠・警報装置のセット

侵入窃盗被害の意外な要因として、被害当時、自宅の窓や玄関が無施錠であることが上げられます。最大の防犯は、「確実な施錠」であることから、「人が家にいるから、泥棒は入って来ないだろう」「2階(以上)だから、大丈夫」との考え方は捨てましょう。また、外出時のみ警報装置を作動させ、在宅中は警報装置を解除することで、夜中に泥棒被害に遭遇する事案も報告されているため、たとえ在宅中であっても、常に警報装置をセットしておきましょう。



#### 来訪者の確認

来訪者があった場合、ドアスコープやインターフォン等で必ず相手を確認してから玄関ドアを開けるようにしましょう。その際、チェーン錠は掛けたままにしておきましょう。

自宅の修理等で業者が訪問する場合、事前に日時を決めさせるようにします。万が一不審に思った場合には、業者の事務所等に問い合わせを行うようにしましょう。

#### 防犯環境の整備

合鍵を集合ポストや植木鉢の下等に置かないようにしましょう。泥棒は独自の嗅覚を持っており、「ここに隠してあるとは思わないだろう」と思っても、見つけれられてしまいます。また、脚立やポリバケツは、泥棒が侵入するための足場になるので、鍵の掛かる場所に保管しましょう。「エアコンの室外機がちょうど足場になる」「庭木や雨樋が、ベランダへのはしご代わりになる」等の構造上の問題がある場合は、直ちに大家に改善を申し入れるべきです。

#### 長期不在時の防犯対策

大家や管理人に、「しばらく留守にする」と伝えて、定期的な見回りを依頼しましょう(会社の同僚や親しい友人に鍵を預けて依頼してもよい)。チラシが郵便受けに溜まっていると、留守宅であると泥棒に悟られてしまうため、管理人等に定期的な対応を依頼しましょう。

悪意のある人間に不在情報が伝わる可能性も考えられることから「しばらく日本に帰る」などと信頼できる人以外に吹聴しないようにしましょう。タイマー、あるいは、感光式で点灯・消灯する照明があれば、活用しましょう。

#### 宿泊先での対策

ホテルによっては、宿泊先のカードキーがなければ特定の階に上がれないようになっていますが、タイミングを見計らってエレベーターに乗り込んでくる者もいるので、周囲を十分に警戒しながら、部屋のドアは必ず施錠しましょう。

スーツケースに施錠をするほか、セーフティボックスに入れる等の措置を講ずる必要がありますが、セーフティボックスが100%安全ではないことを念頭に入れましょう。

### (4) 詐欺盗

日本では振り込め詐欺を代表とする『特殊詐欺』と呼ばれる詐欺被害の増加が社会問題となっています。2014年中の特殊詐欺の認知件数は11,998件、被害総額が約489億5,000万円となっており、いずれも前年を上回る数字を記録した他、被害総額については過去最高の被害額となっています。

こうした特殊詐欺の特徴は、1件あたりの被害額が高額であるという点でも大きな問題となっています。

一方で、ハンガリーにおける詐欺被害は、被害額そのものは僅少ではあるものの、騙す側がありとあらゆる手段を講じて金銭を騙し取ろうと企てる、という特徴があります。

#### 偽警察官による詐欺盗

ブダペスト市内を歩いていたところ、男性が英語で「日本人ですか？」  
「私は東京へ行ったことがある」と言って話し掛けてきた。相手にしないまま歩いていると向かいから私服の男性2人が現れ、英語で「我々は麻薬捜査官だ。パスポートを見せろ。」と強い口調で話し掛けてきた。最初に話し掛けてきた男性は「俺は何も持っていない」と言ってその場から立ち去ったが、捜査官と名乗る男性らは、パスポート入りのケース及び財布を調べる必要があると言って取り上げ、財布から紙幣を取り出しては匂いをかぎ分けるような仕草をしながらジャンパーのポケットに入れようとした。慌てて男性の手を掴んで止めたところ、男性は何も言わずにその場から立ち去った。(未遂)

ブダペスト市内を歩いていたところ、前から来た男性が突然地図を広げて「道がわからないので教えてほしい」と言って近付いてきた。すると突如後ろから、男性が警察手帳と拳銃のようなものを見せて「警察官だ。パスポートを見せろ」と言ってきた。パスポートはホテルに置いてある旨伝え、「財布を見せろ」と言ってきたので、怪しいと思ってその場を立ち去ろうとしたが、強引に腕を引っ張られ、財布の中身も見られた。ホテルに戻って財布の中身を確認したところ、現金3万円がなくなっていた。

オクトゴン周辺を歩いていたところ、突然男性が「両替をしてほしい」と言って近付いてきた。財布を出して両替をしようとしたところ、警察官を名乗る2人組が「偽札捜査をしている。紙幣を見せろ。」と強い口調で言ったので怖くなり、財布からユーロとフォリント紙幣をそれぞれ手渡した。1人目の男が紙幣を数えた後、もう一人の男に紙幣を手渡し数え直していた。男性がお金を抜き取らないように一連の作業から目を離さずにいたが、戻された後、財布の中身を確認したところ、現金約5万円がなくなっていた。

ブダペスト市内でタクシー待ちをしていたところ、地図を手にした若い男性が道を尋ねてきた。男性と一緒に地図を見ていると、麻薬捜査官を名乗る私服の男性2名が「麻薬の取り締まりをしている。財布の中身を確認させろ」と言って財布を取り上げると、何かの臭いがかぐような仕草を見せた。その後、クレジットカードを取り上げられ「本人確認をするので暗証番号を教えろ」と言われたので、言われるがままに暗証番

号を伝えたところ、後に現金20万円が引き落とされていたことが発覚した。

夜11時頃、インターコンチネンタルホテル周辺で買い物をした帰り道で、トルコ人を名乗る男性が「写真を撮ってほしい」と言いながら近付いてきた。カメラを受け取ると、男性が突然「こっちで撮ってほしい」と言い出し、裏道に連れて行かれそうになった。その後、麻薬捜査官を名乗る別の男性2名が「麻薬の捜査をしている。財布を見せろ」と言って近付いてきた。はじめに話し掛けてきた男性も財布をチェックされていたことから、自分も見せなければ身の潔白を証明できないと考え財布の中身を見せた。麻薬捜査官を名乗る男性の一人がクレジットカードの暗証番号を聞いてきたのでさすがに怪しいと思い、嘘の暗証番号を教えたが、「この番号では本人確認が取れなかった。これ以上嘘の番号を教えるならば逮捕しなければならない。」と言ってきたため、本当の番号を教えた。

その後、捜査上の理由でクレジットカードは没収され、さらに手にしていたiPhoneを見て「こんなところで携帯電話を持っていたら危ないだろう。リュックにしまってあげよう」と言われて手渡したが、ホテルに戻って確認すると、財布の中からは現金6万円と、リュックに入れてもらったはずのiPhoneがなくなっていた。さらに、カード会社に利用履歴の確認を行ったところ、現金5万円が引き出されていたことが判明した。

アストリア駅近くのラーコツィ通りを一人で歩いていたところ、観光客と称する年齢50歳くらいの男性が「道がわからないので教えてほしい」と言って近付いてきた。相手にせず歩いていたところ、交差点の角に立っていた別の男性が「警察だ。ドラッグの捜査をしている。怪しい物を持っていないか確認するので財布を見せろ」と言いながら近付いてきた。最初に話し掛けてきた男性が財布を提示したことから、身の潔白を証明するため自分も財布を見せた。男性が「財布の中からクレジットカードを取り出し、持っていた携帯電話の上にカードを押し当てながら「偽のクレジットカードかどうか確認するから暗証番号を言ってみろ」と言ってきたので4桁の暗証番号を伝えると、男性は足早に立ち去った。その後、クレジットカード会社に電話をしたところ「10分ほど前に現金35万フォリント(約18万円)が引き落とされた」との連絡を受けた

買い物を終えて滞在先のアパートメントホテルに戻る際に、見知らぬ男性3人から声を掛けられた。男性らは「警察官だ。偽札捜査をしているからカバンの中身を見せろ」と言って突然カバンの中身を調べ始めた。しばらくすると「もう行っていい」と言ってその場を足早に立ち去ったので不審に思い、カバンの中身を確認すると、現金約10万円の他、クレジットカードが入った財布及びパスポートがなくなっていた。

ブダペスト東駅でウィーン行の列車(Rail-Jet)を待っていたところ、学生風の男性が写真を撮ってほしいと言ってカメラを手渡してきた。写真を撮り終えカメラを男性に返すと、警察官を名乗る2人組が「この辺りで麻薬の売買が横行している。お前達の財布の中身を確認したい」などと言って近付いてきた。最初に話し掛けてきた学生風の男性が財布を提示したため、自分も同様に提示したところ、財布の中から日本円を取り出し、臭いを嗅ぐなどして検査している様子が窺えたが、男性らが立ち去った後に財布の中身を確認したところ、現金約4万円がなくなっていた。

#### 【注意喚起】

90年代後半の偽警察官による詐欺被害は、財布から現金を抜き取るだけでしたが、現在は、クレジットカードの暗証番号を言わせて現金を引き出す高額詐欺被害が特徴的と言えます。

#### なりすまし詐欺

自動車販売店を退職したが、「車両の個人販売を請け負っている」と詐称する男性に車両の頭金を支払い車両購入手続きの仲介を依頼したが、定期的に連絡は来るものの、半年以上納車されなかったことから、頭金を返金するよう求めたところ、返金は不当要求であると言って返金に応じなかった。

#### 【対策】

見知らぬ人を信用しない。人を騙そうとする者は、一見して悪人であることがわかるような格好をしたり、言動をする者はおらず、人当たりがよく、いつも笑顔を振りまくような人物であることを念頭に置く。

ハンガリーの警察官は、その身分及び適正な職務執行を証明するため、身分証及び警察章(バッジ)の両方を市民に提示する義務があります。私服警察官でも、提示義務は免除されないことから、警察官を名乗る人物から所持品検査を求められた場合、必ず相手方の身分証の提示を求めましょう。

なお、犯人らは偽の警察バッジを所持していますが、本物の警察バッジには5桁の本人ID番号が刻印されており、このID番号のないバッジは偽物であることから、確認時の参考として下さい。

わずかでも不審な点があれば、

「警察署で応じる」

「日本大使館に電話する」

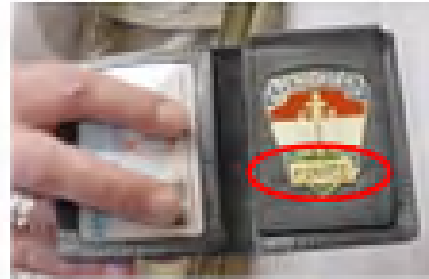
などと主張して、その場で112番（日本の「110番」に相当）あるいは大使館（06 1 398 3100）に電話するなどしましょう。

【警察官が提示を義務付けられているバッジ（上）及び身分証（下）】



【真正の警察官身分証】

顔写真、氏名、階級、警察官（バッジ）  
下部に**右側の顔写真による顔照登録**。



【偽の警察官身分証の例】

真正身分証は**写真なし**ではなく  
右側の**顔照登録**。



【真正な警察官身分証】

#### （5）路上犯罪（強盗、ひったくり等）

日本人に対する路上犯罪は、多くはありませんが、発生しています。発生時間帯はバラバラで、夜間のみならず、白昼堂々人通りのある場所で行われた事案も報告されています。

##### 暴行

アンドラーシ通りラディソンホテル近くで、見知らぬ男性が英語で「ダウンに穴があいていて、羽毛が飛び散っている」と言って近付いてきた。

ダウンを脱いで見てみると、背中部分がカッターのような鋭利なもので

切られた跡があり、しばらくすると先ほど話し掛けてきた男性が近付いてきて「破れたダウンがいらぬなら俺にくれ」と言ってきた。

##### わいせつ行為

4・6番トラムに乗車していた際、車内が混雑していたためつり革に捕まって立っていると、後ろに立っていた男性が体を触ってきたことに気が付いた。後ろを振り返ると男性もすぐに手を下ろしたが、睨みつけたところ男性は次の駅で降車した。

#### 強制わいせつ

4・6番トラムに乗車していた際、混雑した車内で男が体を触ってきたので次の駅で降車したところ、コートが4～5か所、刃物で切られていた。

#### 公然わいせつ

7区にある大通りに面したアパート前を歩いていたところ、同アパート玄関前で裸の男が立っていた。

#### 【対策】

貴重品は持ち歩かない。どうしても携行する場合は、カバンをたすき掛けにしたり、車道と反対側の手に持つなどの工夫をする。

見知らぬ人間の誘いには乗らない。また、自分が行ったことのないよく知らない店での飲食は極力避ける。また、自分がよく知らない店で、飲み物を置いて席を離れない(睡眠薬が混入される事案報告あり)。

夜間に外出する際は、常に周囲に注意を払い、不審者に対する警戒を怠らない。万が一不審者及び不審者らしき人物を発見した場合は、直ちに人目のある場所に移動する。

ハンガリーは、日本と比べて街灯の灯りも暗く、数が少ない。街の中心部であっても薄暗い場所が多くあるので、極力夜間の外出は控える(特に深夜)。

不幸にも強盗やひったくりに遭ってしまった場合、自分の生命・身体の安全を最優先とし、むやみに抵抗しない。

#### (6)自動車盗・車上狙い

ブダペスト市内では、2区及び12区において自動車盗が、比較的多く発生しています。被害対象が路上に駐車中の車両であることから、ガレージ付のアパートを選ぶ、外出時は原則として有人監視のある駐車場を使う等することが肝要です。

車両は盗まれなくても、窓ガラスを割るなどして、車内からカーステレオやカーナビゲーション等を盗み出す「車上狙い」被害も多発しています。

路上に車両を停めて10分後に戻ると、トランクに入れてあったカバンがなくなっていた。警察に届け出た際に、ドアの鍵穴部分を確認するよう言われ、確認してみると、鍵穴をこじ開け跡があった。

MOMパーク前の広場(比較的人が多い)に施錠して自転車をとめ買い物をしていた。しばらくして戻ると自転車がなくなっていた。鍵は2本と

も電柱にくくりつけており、人が多く集まる広場であったにもかかわらず、被害にあった。

センテンドレにある駐車場で駐車券を購入しようと降車したが、購入方法がわからずにいると、見知らぬ男性が近付き購入の手助けをしてくれた。車に戻って駐車券をフロントガラス前面の見やすい場所に置き、ロックを掛けたのを確認してから町中を観光して回った。しばらくして車に戻ると、車内に置いてあったカバンがなくなっていた。

同僚の車のトランクにカバンを入れたまま1時間ほど車を離れて、仕事をしていた。その後宿泊先のホテルに戻ったがカバンは翌朝までトランクに入れっぱなしだった。朝起きて、カバンをとりに車まで行ったところ、トランクの鍵穴がこじ開けられて中のカバンがなくなっていた。

#### 【対策】

車上狙いの犯人は、事前に車両に狙いをつけ追跡している場合が多いため、駐車する際は、路上駐車はなるべく避け、監視カメラなどが設置されている有人の駐車場をご利用下さい。やむを得ず路上駐車する場合は、貴重品は全て車外に持ち出しかつ駐車時間を最小限にするように心掛けましょう。

車を離れる際には、車内に置いてあるカバン等は、人目につかないようトランク等外から見えない場所に移すことも対応策の一つですが、物を移している姿を見られ、物の所在が判明する可能性もあるため、所持品は、極力携行しましょう。持ち出せない場合は、自宅を出る前からトランクに入れておくなどして、犯人から見られないような方法をとりましょう。

#### (7) ぼったくり

ぼったくりバー・レストランと手を組む若い女性らが、土地勘のない観光客を標的として客引きを行います。客引きを行った女性らは、被害者に犯行場所を特定させないように、声掛けを行った場所からレストランへ直行せず、遠回りをしながら店に向かいます。飲食後、法外な値段を請求されて被害者が店側に抗議すると、店側は、注文の時とは別の「裏」メニューを提示し「金額はここに書いています」とおりだ。知ってて注文したんだろう」と脅してくるため、被害者が仕方なく支払いに応じる、という被害が多発しています。

#### 誘い込みによるぼったくり

ブダペスト東駅近くを歩いていたところ、ルーマニア人を自称する30代の2人組の女性らが「写真を撮ってほしい」と言って声を掛けてきた。写真を撮り終わると、女性らが「良い店を知っているから飲みに行こう」と誘ってきた。女性らの言うまま店に入ると、店員が何も言わ

ずにパーリンカ2杯とグラスワイン1杯を持ってきた。その後すぐに請求書を渡され3万5千フォリント（約1万7千円）を請求され、後ろに立っていた用心棒のような男らに銀行まで連れて行かれ引き出しを強要された。

デアーク広場周辺を一人で歩いていたところ、フィンランド人を自称する30代の2人組の女性らが「写真を撮ってほしい」と言って声を掛けてきた。写真を撮り終わると、女性らが「良い店を知っているから飲みにいこう」と誘ってきた。店に入ると女性らはメニューを確認せずに突然パーリンカを注文し、その後もボトルワインを次々に注文した。しばらくすると店員が「支払いが20万フォリント（約10万円）を超えたが支払いは現金か、カードか」と質問してきた。金額が高額であることに驚き尋ねたところ、店の奥からメニューを持ってきたが、メニュー表には「パーリンカ1杯1万フォリント」と記載されており、その他のメニューも総じて高額な値段で記載されていた。持ち合わせが2万フォリント（約1万円）しかないことを伝え、女性らも困惑したふりしながら「私たちが手伝うから一緒にお金を下ろしに行こう」と言ってきたので、近くの銀行に行って現金を引き出し残りの代金を支払った。

デアーク広場にある「Yorxun Club」で1時間ほどお酒を飲んで帰ろうとしたところ、20万フォリント（約10万円）の支払いを要求された。飲んだお酒はせいぜい2万フォリント（約1万円）程度であったため警察へ連絡する旨伝えたと、店側が態度を急変させ「支払いはいらない」と言ってきた（未遂）。

#### 【対策】

客引きの誘いには応じない。特に20～30代の女性が話し掛けてきた場合には、間違いなく客引きであるという認識を持つようにする。

いかがわしい場所に立ち入らない。

店まで行った場合は、注文をする前に、メニューに料金が書かれているか、その値段が妥当な金額かをよく確認する。

#### 【注意喚起】

ブダペスト市内でも治安が悪い地域の一つに数えられる7区には、約400ヶ所のバーやクラブがあり、ブダペスト市警察も重点警戒対象として、より多くのパトロール警察官を配置しています。こうした地域では、夜の時間帯に人が多く集うことから、木曜日から日曜日の夜にかけては、被害に遭わないように極力近付かないなど十分注意をして下さい。



## 4 緊急連絡先

### (1) ハンガリーの緊急通報の問題点と対策

#### 【問題点】

オペレーターの数が少ないため、通報が重なった場合、電話がつながるまで相当長い時間待たされることがある。

「レスポンスタイム」(通報を受けてから警察官等が臨場するまでの所要時間)を計測する法律上の規定がないため、「一刻も早く臨場する」という動機付けがない。

#### 【対策】

緊急電話がつながらない場合に備え、最寄りの警察署や消防署、救急病院の代表番号を携帯電話に入力しておく。また、それらの場所についても把握しておき、状況によっては直接同所に駆け込んで、助けを求める。

緊急の通報に備え、簡単なハンガリー語を覚えておく。

ハンガリー語が話せ、かつ、いつでも連絡が取れる知人を数名確保しておき、緊急時には代理通報してもらう。

### (2) 緊急通報先

警察:107

救急:104

消防:105

緊急用共通電話:112

112は、緊急通報のためのEU共通番号です。外国人がEU各国で、警察、消防、救急のそれぞれの番号を覚える必要はなく、加盟国内ではどこでも112に電話すれば事足りるという制度です。

ハンガリーもEU加盟後に112を導入しました。既存の緊急電話番号が併存し、暫定的に警察が運営しているなど未だ整備途中ですが、旧来の通報先に比べ、112に通報すれば、

警察と救急を一度に要請できる

オペレーターが、複数言語対応である

という利点があります。

### (3) 在ハンガリー日本国大使館

所在地 : 1125 Budapest, Zalai u.7

開館時間 : 午前8時30分～午後5時45分(月～金)

代表電話番号

ア 開館時間(06-1)-398-3100

イ 閉館時間の緊急連絡先(06-1)328-5329

ホームページ : <http://www.hu.emb-japan.go.jp/> 

- ( 4 ) ハンガリー政府観光局による観光客用ホットライン  
( 06 - 1 ) 438 8080 ( 英・独語で24時間受付 )  
観光施設、飲食店等に対する苦情受付のほか、犯罪被害にも一時的に対応。

## 5 緊急時の簡単なハンガリー語

- ( 1 ) 助けて  
シェギーチェン ( Segítsen )
- ( 2 ) 動けない  
ネム・トゥドク・モゾグニ ( Nem tudok mozogni )
- ( 3 ) 警察を呼んで下さい  
ヒーヴィヤ・ア・レンドゥールシェーゲット ( Hívja a rendőrséget! )
- ( 4 ) 救急車を呼んで下さい  
ヒーヴィヤ・ア・メントゥート ( Hívja a mentőt! )
- ( 5 ) 火事だ  
トゥーズ・ヴァン ( Tűz van! )
- ( 6 ) 日本国大使館  
ヤパーン・ナジクヴェツェーグ ( Japán Nagykövetség )

## おわりに

日本人が被害者となる事件・事故を1件でも少なくするため、この機会に、在留邦人の皆様に3点お願いします。

- 1 在留届 ( 変更届・転出届・帰国届 ) の大使館への提出  
旅券法により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する人は、在留届の提出が義務付けられています ( 3か月未満の方も提出いただけます )。在留届は、緊急事態発生時の大使館による安否確認や情報提供の基礎資料となりますので、未提出の方は、提出をお願いします。  
また、その性質上、登録内容は常に最新のものにしておく必要がありますので、お手数ですが、記載事項に変更のあった方は変更届、ハンガリー国外へ転出される方は転出届、日本に帰国する方は帰国届の提出をお願いします。詳しい手続については、当館HPをご覧ください。
- 2 被害に遭われた場合の大使館への連絡  
不幸にも犯罪被害に遭われた方は、ご面倒でも当館までご一報ください。ご連絡いただいた情報は、個人が特定されないようプライバシーの保護に配慮した上で、当地邦人社会全体の安全向上に資するよう、皆様に還元します。
- 3 家庭や職場、学校での情報共有  
本「手引き」のほか、当館では在留届をご提出いただきメールアドレスを登

録されている方に対して、INSIDEと呼ばれる緊急一斉通報を実施しているほか、当地在留邦人に対して「安全対策連絡協議会」を定期的に開催し、当地治安情勢に関する情報発信を行うなど、様々な分野において情報共有に努めています。また、ご旅行者の方々が安心して当地でご滞在いただけるよう、当地で邦人観光客を多数受け入れている各旅行会社に対しても情報共有を行うなどしています。(了)